

## 人生最高の出会い

谷 本 敏 枝

母校の土井先生につれられ、古市の校舎に校長先生を訪問したのは、卒業を目の前にした二月の寒い日だったと思います。古ぼけた校舎、うす暗い職員室に臥していられる校長先生を見て、私の懂れていた学校のイメージとは

## 二、教育一途の人

余りに違う、すぐにでも帰りたいと、思いましたが、難病のカリエスと戦いながら、熱心に女子教育について話される先生のお話に、次第に引きずり込まれ、帰る頃には「是非この先生のもとで働かせてもらおう。」という気持ちになっていました。

昭和二十九年四月、私の教員としての第一歩が始まりました。住まいはこの校舎の空いた教室を借り、電車で可部の校舎へ通うことになりました。可部の校舎も古いものでしたが、明るい調理室があり、新しい食器や器具も、購入してもらったり、またその年から学園祭では、うどん、ぜんざい、カレー等生徒と協力して作り、その収益で調理器具等一つずつそろえる楽しさは、また格別のものがありました。昭和三十三年四月三十日、職員室から出ると二階建て校舎の屋根の三角通気孔から煙が吹き出していて、それがまたたく間に燃え広がりました。私は「一つも焼きたくない」との思いで一目散に調理室の器具を外へ運び出し、隣りの大和重工からかけつけて来た人たちにもお願いして沢山の器具を運び出してもらいましたが、風が強く上から落ちてくる火の粉が気になってやめ、焼け残っている校舎わきに帰ると、椅子に座って燃え盛る校舎を、じっと見つめて居られた校長先生、あの時の無念そうなお姿が、今でも私の脳裏に焼き付いております。こんな苦難にもくじけず、それから、今の広島市立安佐市民病院が建っている場所に、新校舎を建てる為の土地作りが始まりました。風呂敷など土が包めるものに入るものには、それぞれが出来ただけ多く入れ運んだり、草取り等、天気の良い放課後等は汗だらけになりがん張りました。私達の学ぶ立派な校舎を一日も早く建てるのだと言う意気込みでした。「今度作る調理室は、あんたが思うように設計してみなさい。」といわれ、本当に嬉しく、河内設計事務所にも何回も通い「ユニットキッチン」「田舎で作るならこんなキッチン」「街での使いやすいキッチン」等、調理室、試食室以外にも、モデル室を作り、経済的、効率的、

しかも快適に使用出来、他の学校の先駆けになれるようにと、照明一つ一つにも楽しく、気をつかったものでした。今考えれば、若くて無鉄砲な私に、大切な校舎の一部の設計をよくまかせて下さったものだと、感謝の気持ちでいっぱいです。

昭和三十四年に結婚で学校をやめるまで、本当に色々な事を学びました。いろいろ教えていただきました。校長先生には、時折先生が古くて私の考えが新しいのだと思ったり、節約ばかりが美德ではない等と思い、何回か、くつてかかったり暴言をはいたりしましたが、いつも納得いくまで話して下さいました。

物質の貧しさは恥かしくないが、心の貧しい人にだけはならないように、労働の大切さと、汗をかいた後の爽快感、どんな困難にも、打ち勝つ忍耐強さ、小さな事から一つ一つ積み上げて行くことの重要さ、女性が、本当の女性として生きてゆく方針などなど。私の青春時代に校長先生におそった事は、まだまだ沢山あります。

それが、学校をやめて、結婚してから、現在まで、三十五年間の生活に、どれだけ役に立ってきたか、計り知れません。

一回しかない人生、その門出で、私は本当に良い出合いが出来た事を、感謝します。

校長先生、本当に、本当に有難うございました。